

取扱説明書



オールテレーンクレーン

型式 **GA-700N-1**

適用号機 570076 ~

▲ 注意：この取扱説明書を読んでから操作してください。
この取扱説明書はいつでも読めるよう、所定の
位置に保管してください。

株式会社 タダノ

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

▲ 周囲の安全を確認してから操作する

機械の近くに人がいると、機械の間やカウンタウエイトと障害物の間に人が挟まれる危険性があります。特に旋回操作を始める前には、機械の近くに人がいないことを確認してください。機械を動かす前にホーンを鳴らして警告してください。

作業時は、機械の周りにロープを張るなど、機械の近くに人が立ち入らない措置を講じてください。

▲ 地切り操作は確実に

荷をつり上げるときは、地切り操作を確実に行ってください。

地切りの際は玉掛けロープが張った時点でいったん停止し、荷の重心をつっているか、荷が地面に固着していないか、周囲の荷や構造物などと干渉していないか確認してください。

荷は垂直につり上げ、荷が地面から数cm離れたところで再度停止して荷の振れを止め、玉掛け状態や、荷がその位置で確実に保持されているか、過負荷になっていないか等を確認した後、再度つり上げてください。

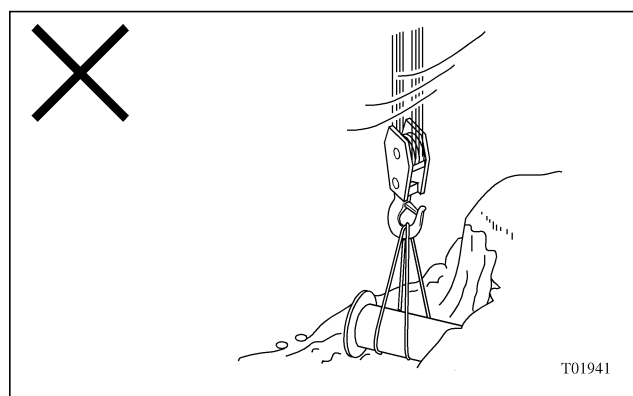
▲ ブームの上げ・伸長操作による地切りの禁止

地切り操作は、必ずウインチ操作で行ってください。ブームの上げ・伸長操作による地切りは、荷振れを起こして危険です。特にブーム上げ操作による地切りは、過負荷であっても自動停止しないため、機械の損傷や転倒事故の原因になります。

▲ 無理なつり上げは行わない

埋設物や植え木、地面に打ち込まれた物を抜こうとすると、機械の各部に思わぬ荷重が加わり、機械の損傷や転倒事故を起こします。

柱や杭のように地面に打ち込まれた物や、植え木や泥や砂に埋まっている物をつり上げないでください。どこからも力を受けていない状態にある物だけを、つり上げてください。



▲ つり荷の移動は慎重に

定格性能に近づくと、AMLが断続の警報音で知らせます。クレーン操作は慎重にし、速度を落としてください。特に作業半径が広がるブーム下げ操作は、過負荷にならないよう注意してください。

▲ 過負荷（性能オーバー）に注意

定格総荷重に近い荷をつっているときは、荷が振れると過負荷になることがあります。十分注意して操作してください。

また、作業半径が広がるブーム伸長操作・ブーム下げ操作を行うときも、過負荷にならないよう注意してください。

▲ 過負荷になったときは

過負荷になったとき、急にブームを上げたり下げたりするのは、機械が転倒しやすくなり危険です。すみやかにウインチ巻下げ操作をして、つり荷を地面に降ろしてください。

▲ クレーン操作はていねいに

急激な操作や乱暴な操作は、荷振れによる衝突事故や、機械が損傷する原因になります。レバーやペダル類は、ゆっくりと確実に、ていねいに操作してください。

▲ リフティングマグネット使用時の注意

リフティングマグネット使用時に万一電源が切れた場合は、つり荷が落下します。リフティングマグネット使用時は、下記の事項に注意して作業してください。

- 発電機の起動・停止の手順は正しく行ってください。
- 作業前に周囲に人がいないことを確認してください。つり荷の下に人が立ち入ったり、人の頭上につり荷を通過させたりしないでください。
- 吸着、解放レバーの操作は的確に行い、所定の場所に正しくつり荷を降ろしてください。
- 運転席を離れるときは、マグネットを格納位置に降ろして電源を切ってください。
- 雨の日などに感電しないよう、電気系統の保守点検は正しく行ってください。

詳しくは製造メーカーの取扱説明書に従ってください。

▲ アウトリガ不使用方法は慎重に

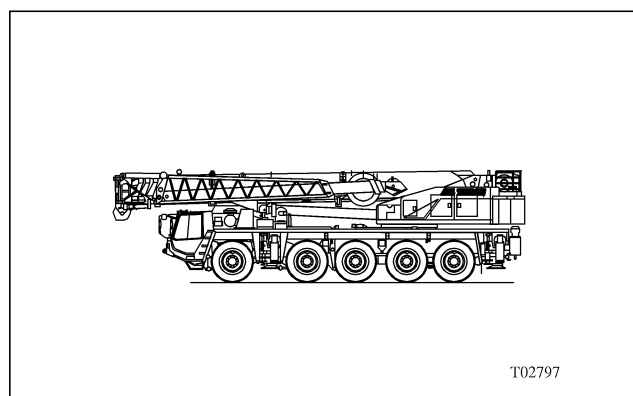
アウトリガ不使用方法の性能があるクレーンがありますが、アウトリガを設置していないため、操作を誤ると転倒する危険性があります。

やむを得ずアウトリガ不使用方法を行う場合は、取扱説明書の注意事項を厳守し、細心の注意を払って作業してください。

作業後の注意

▲ 作業終了後は機械を格納する

作業姿勢のまま機械を放置しておくのは危険です。作業終了後は必ず機械を格納してください。



T02797

▲ PTOを「OFF」にする

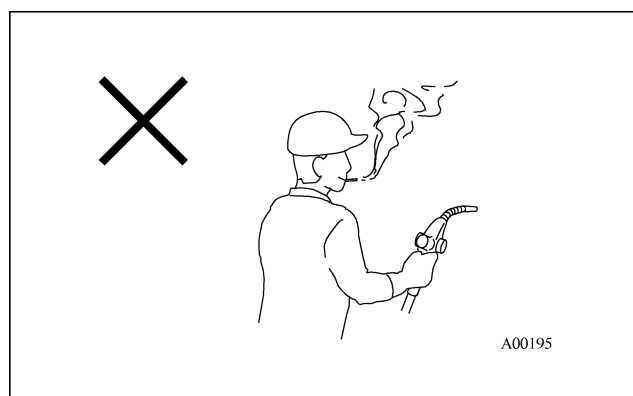
PTOが「ON」のままになっていると、レバーを動かされた場合に機械が動いて危険です。機械を格納した後は、PTOを「OFF」にしてください。

▲ 燃料補給時の注意

燃料は非常に燃えやすく危険です。他の油脂類も燃えやすく危険です。取扱いには十分注意してください。

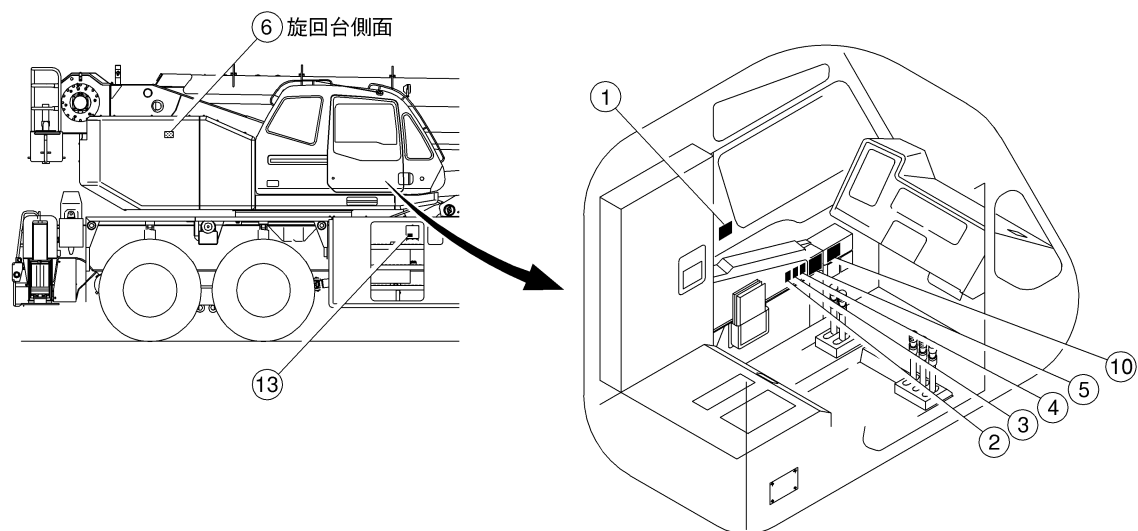
燃料補給時は下記の事項に注意してください。

- エンジンを止めてください。
- 換気の良い屋外で給油してください。
- タバコなどの火気を近づけないでください。

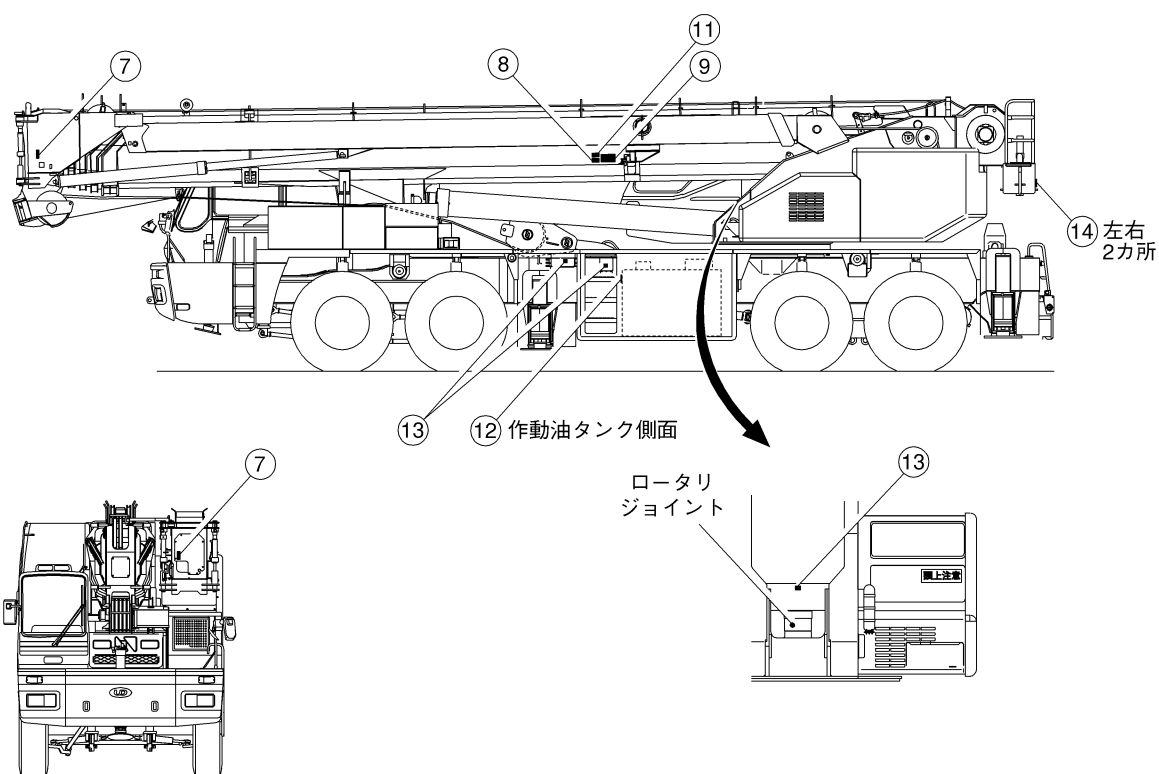


A00195

ラベル位置と警告内容



T24109J



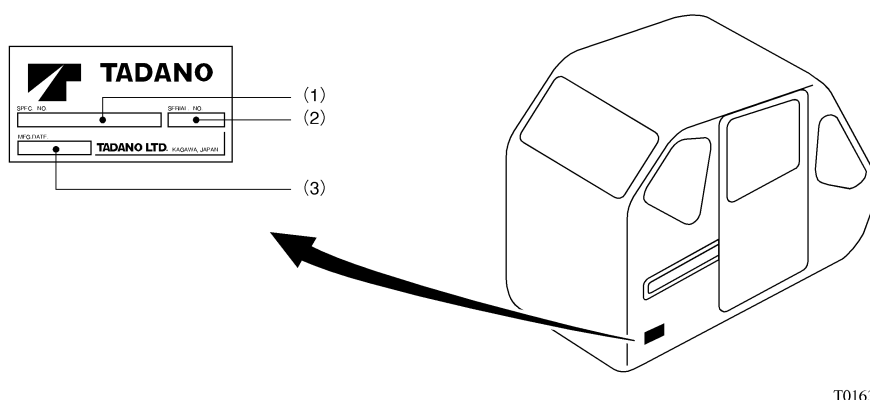
T24125J

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1. ⚠ 危険 ブーム挟まれ注意 | 9. ⚠ 警告 ジブ落下注意 |
| 2. ⚠ 警告 転倒注意 | 10. ⚠ 注意 ジブ装着・格納注意 |
| 3. ⚠ 警告 感電注意 | 11. ⚠ 注意 シングルトップ格納注意 |
| 4. ⚠ 警告 必読取扱説明書 | 12. ⚠ 注意 油圧ポンプのエア抜き注意 |
| 5. ⚠ 警告 一般取扱い注意 | 13. ⚠ 注意 洗浄禁止 (4カ所) |
| 6. ⚠ 警告 配管分解禁止 | 14. ⚠ 注意 指はさまれ注意 (2カ所) |
| 7. ⚠ 警告 ジブ連結ピン操作注意 (2カ所) | |
| 8. ⚠ 警告 ジブ装着・格納注意 | |

故障連絡および部品注文

クレーンが故障した場合、部品注文の場合は、次の項目を当社指定サービス工場にご連絡ください。当社指定サービス工場の住所・電話番号は、「販売、サービス網住所録」を参照ください。

- (1) スペック番号
- (2) 製造番号
- (3) 製造年月



T01636

- (4) 故障状況または部品名称と個数

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

MEMO

作業領域図の見方

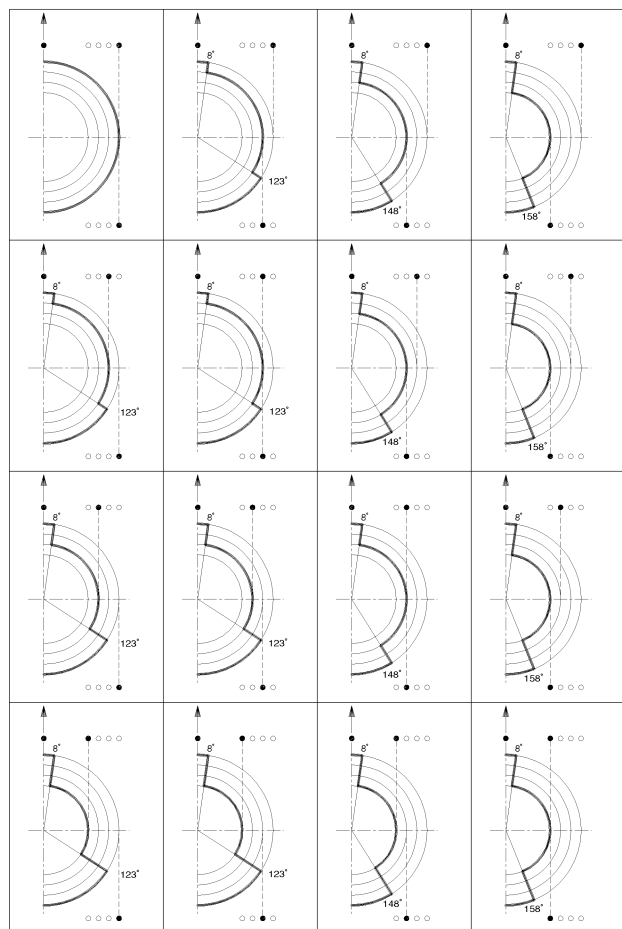
警告

▲ 旋回自動停止解除スイッチを「ON」にしていると、作業領域図の大きい円（領域）から小さい円（領域）へ旋回したとき、過負荷になっても自動停止しないので危険です。
旋回自動停止解除スイッチは、やむを得ない場合を除いて「ON」にしないでください。

アウトリガ張出状態とフロントジャッキ使用状態によってクレーンの作業領域が異なります。

下図は作業領域図の一例を示したものです。実際の図はクレーン運転室内の「銘板ファイル」の中の作業領域図を見てください。

ブーム作業領域図（右側） フロントジャッキ使用時



(C-4)

343-953-71240
343-953-71240-0

「銘板ファイル」の中から該当するアウトリガ張出状態とフロントジャッキ使用状態の作業領域図を選択して、作業領域の性能および範囲を読み取ってください。

◆ 作業領域図の円の大きさは、アウトリガ張出幅で決まる性能に対応しています。更にカウンタウエイトの装着状態に応じて下表の性能になります。

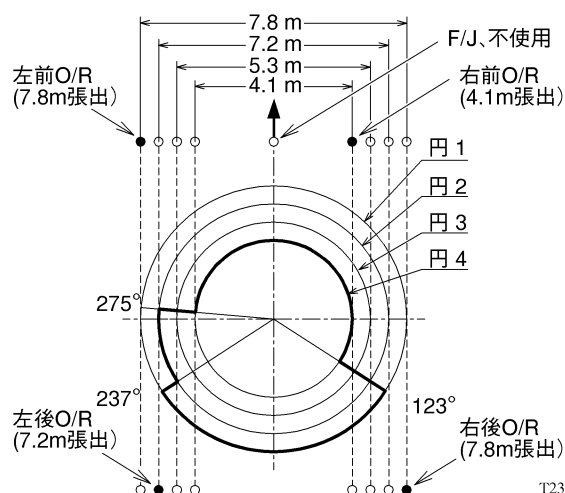
		適用性能			
		ブーム作業		ジブ作業	
	C/W質量	5.6 t	1.1 t	5.6 t	1.1 t
円1	7.8m張出	A性能	B性能	A性能	B性能
円2	7.2m張出	B性能	C性能	B性能	C性能
円3	5.3m張出	C性能	D性能	C性能	
円4	4.1m張出	D性能	E性能		

-例-

下図のアウトリガ張出幅、フロントジャッキ状態（不使用）でブーム作業（カウンタウエイト5.6 t装着）を行う場合、作業領域別の性能および範囲は、次のようになります。

- (1)前方領域 : D性能 (275°~85°範囲)
- (2)右側方領域 : D性能 (85°~123°範囲)
- (3)後方領域 : A性能 (123°~237°範囲)
- (4)左側方領域 : B性能 (237°~275°範囲)

◆ 下図のようなアウトリガ張出状態において、後方から左後方 (237°) を経て左側方領域内 (237°~275°範囲) に旋回すると、7.8m張出の性能から7.2m張出の性能に変化します。更に旋回して前方領域内 (275°~85°範囲) に旋回すると、7.2m張出の性能から4.1m張出の性能へと変化します。

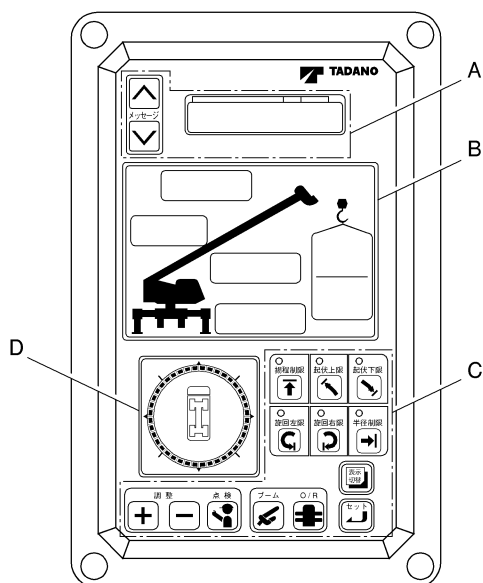


T23772J

AML本体の使い方

各部の名称と機能

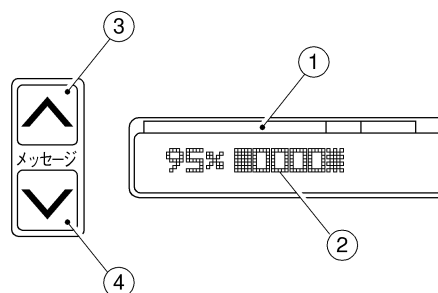
AML（本体）



T02235

- A バーグラフ表示部
- B 表示パネル1
- C 操作部
- D 表示パネル2

A. バーグラフ表示部



T02237

1. 負荷率マーク

モーメント負荷率のバーグラフ表示が、安全（緑）、予告（黄）、限界（赤）のどの領域かを表示します。

2. モーメント表示器

通常はモーメント負荷率をバーグラフと数値で表示します。

表示切替えキーを押している間は、メイン油圧圧力とアキュムレータ圧力を表示します。

増キーまたは減キーを押すと、起伏速度調整値を表示します。

検出器などの異常を検出した際は、エラーメッセージを表示します。

3. スクロールアップキー（↑）

モーメント表示器に表示された前のメッセージを見る場合に使用します。

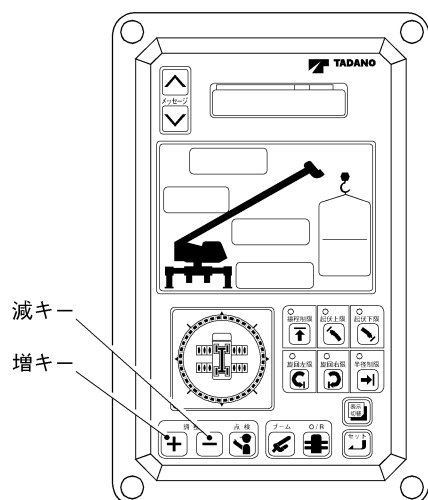
4. スクロールダウンキー（↓）

モーメント表示器に表示された次のメッセージを見る場合に使用します。

起伏速度調整機能の使い方

起伏速度調整機能は、ブーム伸長時の起伏最高速度を調整する機能です。

起伏速度調整の登録方法



T05561J

起伏速度調整の登録は、増キーおよび減キーで行います。増キーまたは減キーを押すと、バーグラフ表示部の表示が変わり、次のような起伏速度調整値が表示されます。



T05562J

バーグラフ表示部に起伏速度調整値が表示されているときに、さらに増キーまたは減キーを押すと、起伏速度調整値が0%（停止）～100%（標準速度）まで10%きざみで設定できます。

また、起伏操作を行いながら増キーまたは減キーを押すことにより、ブーム上げ側の速度とブーム下げ側の速度を個別に調整することができます。

- ブーム上げ操作時：上げ側の速度のみ変更
- ブーム下げ操作時：下げ側の速度のみ変更
- 起伏非操作時：上げ・下げ両方の速度が同時に変更

◆約10秒間増キーまたは減キーを押さないと、バーグラフ表示部は通常状態（モーメント表示器にバーグラフが表示されている状態）に戻り、起伏速度調整の登録は終了します。

◆電源を切っても、それまでの登録内容は記憶されており、電源を再投入すると記憶されている作業状態からスタートします。なお、電源を再投入するとバーグラフ表示部全点灯後、2～3秒間だけ起伏速度調整値が表示され、その後通常状態（モーメント表示器にバーグラフが表示されている状態）に戻ります。

起伏速度調整登録時の動作速度

起伏速度調整機能で表示する%はブーム全伸時の速度制限値であり、ブーム全縮状態では常に標準速度で動作します。

以下に調整値と起伏動作速度との関係を示します。

(1)調整値を0%にした場合

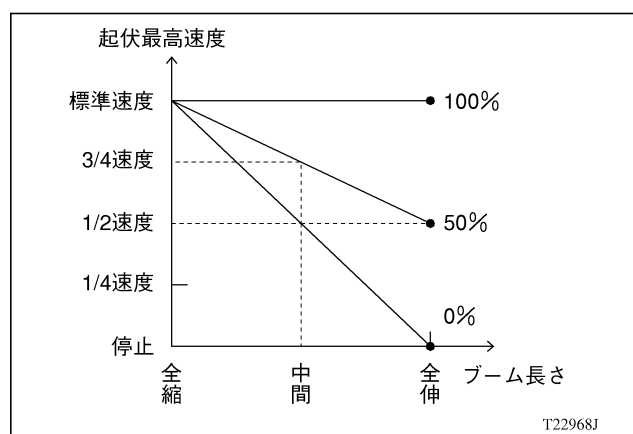
- 全縮 ……………標準速度
- 全縮と全伸の中間 (1/2)…標準速度の1/2
- 全伸 ……………停止 (ほとんど動作しない)

(2)調整値を50%にした場合

- 全縮 ……………標準速度
- 全縮と全伸の中間 (1/2)…標準速度の3/4
- 全伸 ……………標準速度の1/2

(3)調整値を100%にした場合

- 全縮 ……………標準速度
- 全縮と全伸の中間 (1/2)…標準速度
- 全伸 ……………標準速度



T22968J

サスペンション操作

アウトリガ操作前

【留意事項】

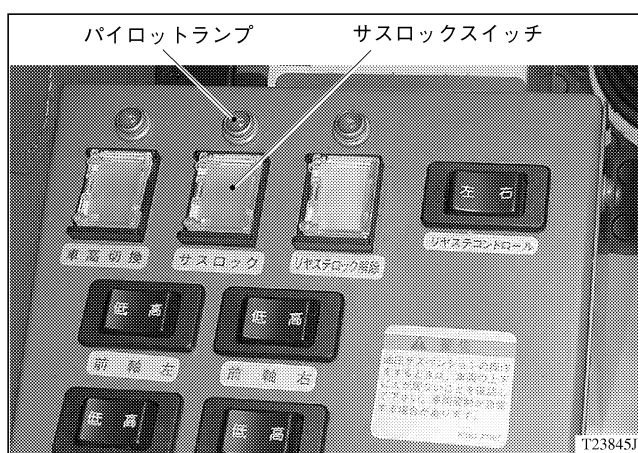
◆サスペンションをロックしないでアウトリガを設置すると、タイヤが地面から浮かないことがあります。クレーンの安定性確保のため、忘れずにサスペンションをロックしてください。

1. 車両エンジンを始動してPTOを「ON」にしてください。

2. 車両運転室のサスロックスイッチを押して油圧サスペンションをロックしてください。操作後、パイロットランプが点灯することを確認してください。

◆サスペンション操作は、車両停止状態およびエンジンアイドル状態で行ってください。

◆サスペンション操作の詳細は、「クレーンキャリア取扱説明書」に従ってください。



アウトリガ格納後

▲ 注意

▲ サスペンションロックを解除しないで走行すると、故障の原因になります。アウトリガ格納後は、忘れずにサスペンションロックを解除してください。

1. アウトリガ格納後、PTOを「OFF」にしてください。

2. 車両運転室のサスロックスイッチを押して、油圧サスペンションのロックを解除してください。そして、スイッチを押してから約10秒後にパイロットランプが消灯することを確認してください。

アウトリガ張出し操作

▲ 警告

▲ アウトリガが正しく張り出されていないと、安全が確保されません。アウトリガの張出しは、定格総荷重表のつり上げ性能に対応した張出し幅を厳守してください。なお、中間張出し性能があるクレーンでも、可能な限りアウトリガは、最大張出しに設置することを原則にしてください。

▲ 油圧サスペンションをロックしないでアウトリガを設置すると、タイヤが地面に接地してクレーンの安定性が低下します。アウトリガ設置前に、油圧サスペンションがロックされていることを確認してください。

また、アウトリガを設置した状態では、サスペンションロックを解除しないでください。ロックを解除すると、アクスルが落下して事故につながる危険性があります。

▲ アウトリガを設置したときに、タイヤが地面に接地していると、タイヤの反力を受けてクレーンの安定性が低下します。タイヤが地面に接するときは、敷板を使用してタイヤが地面から浮くようにアウトリガを設置してください。

▲ クレーンが3本のジャッキシリンダで水平設置されていることがあります。この状態で作業を行うと危険です。アウトリガフロートの接地状態を確認し、浮いているアウトリガフロートがあれば、接地させてください。

▲ クレーンが水平に設置されていないと、傾斜の低い方向に回転したときに作業半径が広がり、最悪の場合には転倒します。アウトリガ設置時は、水準器で確認して水平に設置してください。

▲ スライドロックピンが入っていない状態で作業を行うと、作業中にアウトリガビームが縮小する恐れがあります。アウトリガビーム張出し後は確実にスライドロックピンを入れてください。

▲ 周囲の安全を確認しないでアウトリガを張り出すと危険です。アウトリガを左右同時に張り出すときは、操作前に十分左右の安全を確認してください。

【留意事項】

◆アウトリガ操作は先着操作優先式になっており、両側の操作ボックスから同時に操作することはできません。また、同時操作は禁止します。片側の操作ボックスのみで操作してください。

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

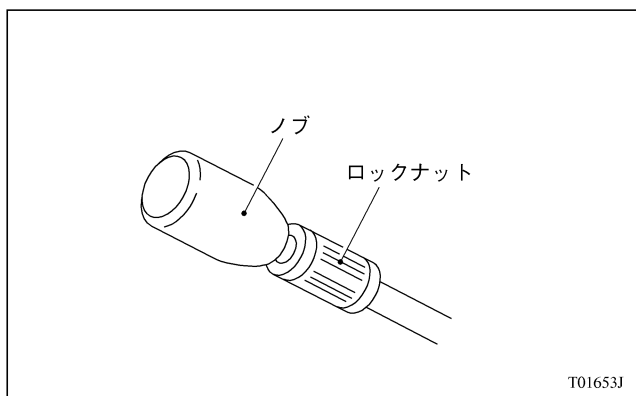
CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

操作レバーの長さ調整

各操作レバーは長さ調整ができます。次の要領で好みの長さに調整してください。

- (1)ロックナットを左に回して緩める。
- (2)ノブを出し入れしてレバーの長さを調整する。
- (3)ロックナットを右に回してロックする。

◆クレーン作業終了後は、ノブを押し込んで操作レバーの長さを短くしておいてください。



操作レバーのロックと解除

クレーン操作前に、ロックピンを引き出して操作レバーをフリーにしてください。

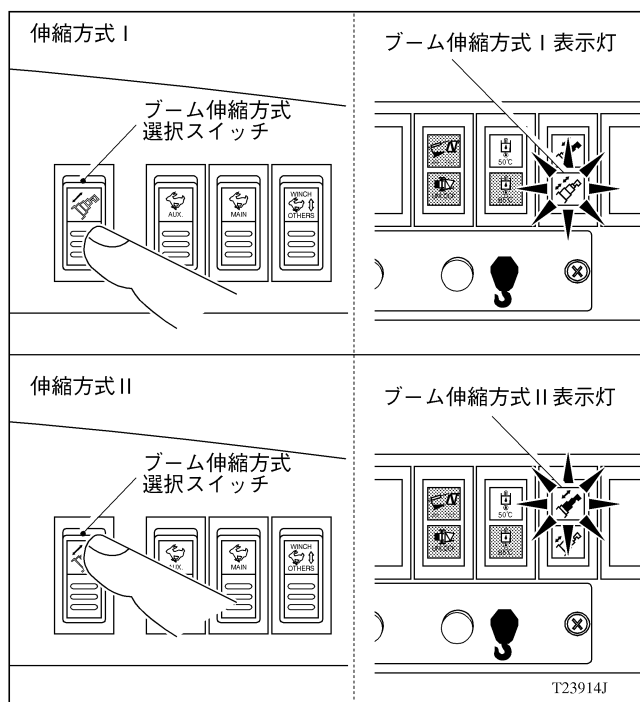
クレーン作業終了後は、ロックピンを入れて操作レバーをロックし、後方に倒しておいてください。

1. ブームを全縮小状態にしてください。

◆ブームが全縮小になっていないと、ブーム伸縮方式選択スイッチを押しても切り換わりません。

2. ブーム伸縮方式選択スイッチを押して、ブーム伸縮方式を「I」または「II」に切り換えてください。

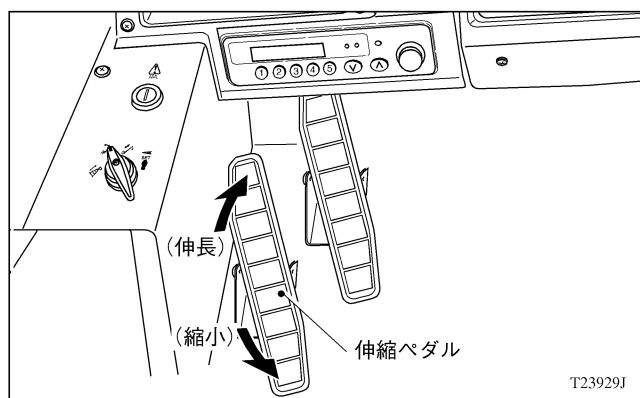
◆選択したブーム伸縮方式に対応する表示灯が点灯することを確認してください。



伸縮ペダル

ブームの伸長、縮小操作を行うペダルです。

◆伸縮レバーとは連動していません。従って、伸縮レバー操作選択スイッチをジブ操作側に切り換えているときでも、伸縮ペダルでブームの伸長、縮小操作が行えます。



ブーム伸縮操作

警告

▲ 急激なレバー操作は荷がはずんだり、振れたりして危険です。レバー操作はゆっくりと行ってください。

▲ ブームを伸長すると作業半径が増します。ブームを伸長するときは、過負荷にならないように注意してください。

▲ 誤ったブーム状態で荷をつると、ブーム破損事故の原因になります。ブームが正しい順序で伸縮していることを確認しながら作業を行ってください。

▲ 伸縮操作による荷の押込みおよび引込みは、行わないでください。クレーンの損傷や事故を起こす原因になります。

【留意事項】

◆ブーム伸縮方式IIの場合、44 mブームの起伏低角度付近ではブーム縮小能力が不足することがあります。引込み作業を行う必要がある場合は、あらかじめ伸縮方式Iを選択して作業してください。

◆ブーム伸縮操作を行う前に、伸縮レバー操作選択スイッチが（ブーム伸縮）位置になっており、伸縮レバー選択表示灯（ブーム伸縮）が点灯していることを確認してください。

◆ブームを伸長した状態で時間が経つと、作動油の温度変化によってブームがわずかに縮小します。例えば、ブーム伸長量が5 mとして、作動油の温度が10°C低下すれば約40 mm縮小します。ただし、縮小量は温度変化のほか、ブーム伸縮状態、ブーム角度、潤滑状態等の要因によって異なります。

ブーム縮小防止には次のことが役立ちます。

- (1)高温になった作動油でブームを伸長しない。（作動油の温度が高温にならないように、低温時からオイルクーラを作動させる）
- (2)伸縮シリンダをストロークエンドさせたブーム伸長状態にする。
- (3)適度にブーム伸長操作をする。

ブームの伸縮操作は伸縮レバー、伸縮ペダル、次段ブーム伸長スイッチを操作して行います。

伸縮速度の調整は、クレーン増速選択スイッチの切換え、伸縮レバー（伸縮ペダル）の操作量、およびアクセル操作で行ってください。

旋回操作

警告

▲ 旋回レバー操作はゆっくりと行ってください。急操作は荷がはずんだり、振れたりして危険です。人身事故やクレーンの損傷の原因になります。

▲ 旋回操作による荷の押し込みおよび横引きは、行わないでください。クレーンを損傷したりして事故の原因になります。

▲ 旋回前にブーム・ジブ等が当たるような障害物がないことを確認してください。

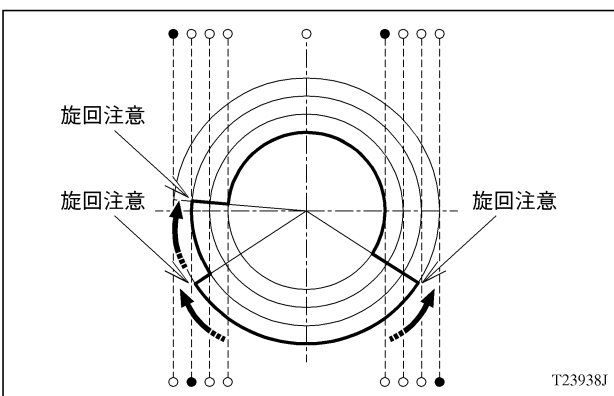
▲ 旋回前にホーンスイッチを押して、周囲の人に注意を促してください。

▲ 旋回自動停止解除スイッチを「ON（解除）」にしているときは、旋回操作で過負荷になっても自動停止しません。

旋回自動停止機能を解除する必要がなくなれば、速やかに旋回自動停止状態に戻してください。

やむを得ず旋回自動停止機能を解除して旋回操作を行うときは、旋回操作を行う前に安全を確認してください。特に図のように性能が低下する作業領域へ旋回するときは、十分注意してください。

もし旋回中にAML内蔵ブザー（ビープ音）が鳴り、AMLのモーメント表示器にメッセージが出た場合は、直ちに旋回を停止し、つり荷を降ろすか逆方向に旋回するかして危険を回避してください。

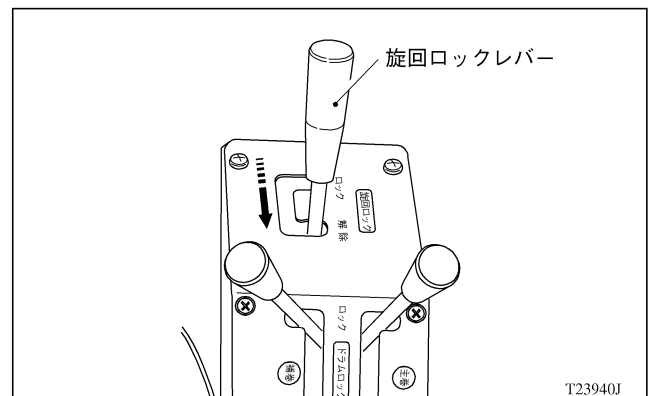


▲ アウトリガ最小張出（その場設置）で側方に旋回するときは、十分注意してください。旋回操作で後方転倒領域に入っても自動停止しません。ブーム角度を67°以上にして旋回すると、後方安定性能がなくなり後方転倒の危険性があります。もし旋回中にAML内蔵ブザー（ビープ音）が鳴り、AMLのモーメント表示器にメッセージが出た場合は、直ちに旋回を停止してください。そして、ブーム下げまたは逆方向に旋回するかして危険を回避してください。

▲ 旋回操作以外の操作で過負荷状態になった場合は、旋回作動は自動停止しません。復元操作をしてから旋回操作をしてください。

旋回操作は、旋回レバーを操作して行います。旋回速度の調整は、旋回レバーの操作量およびアクセル操作で行ってください。

1. 旋回ロックレバーを「解除」位置にして、旋回ロックピンを抜いてください。



2. 作業内容に応じて旋回フリー・ロック選択スイッチを、（フリー）または（ロック）のいずれかを選択してください。

◆（フリー）および（ロック）位置での旋回機能は、次のとおりです。

（フリー）：

旋回レバーを中立位置に戻しても、慣性によりしばらく旋回します。旋回レバーを戻すときは、旋回の流れを考慮してください。

また、短いブームで重量物をつり上げる場合、フックとつり荷の位置がずれているときは、スイッチをこの位置にしてウインチ巻上げ操作を行うと、上部旋回体がつり荷の方向に旋回して、荷を垂直に巻き上げることができます。

（ロック）：

旋回レバーを中立位置に戻すと直ちに旋回が停止します。旋回レバーを戻すときは、ゆっくりと戻してください。

◆スイッチの切換えは、旋回停止状態で行ってください。

シングルトップの装着

⚠ 警告

⚠ 高所で作業を行うときは、転落防止のため、作業台を使用して安全に作業を行ってください。

⚠ シングルトップは確実に装着してください。格納ピン・連結ピンは、スナップピンを使用して確実に抜け止め処置をしてください。

1. アウトリガを張り出して、クレーンを水平に設置してください。

2. ブームを水平にしてください。

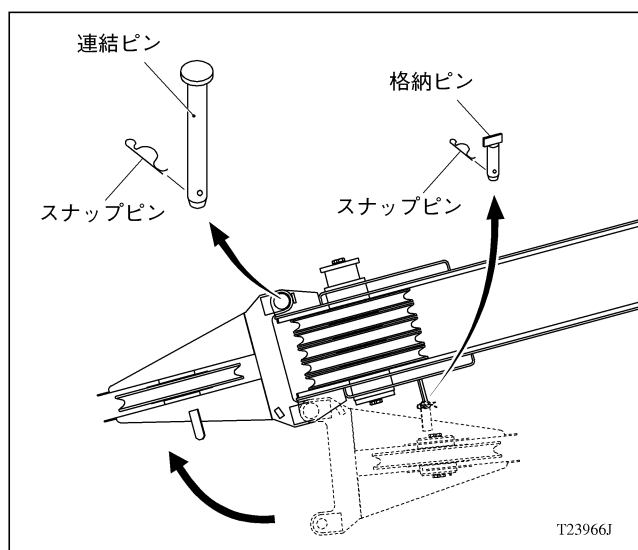
【留意事項】

◆ブームは下限いっぱいまで下げないでください。起伏シリンダを下限ストロークエンドにすると、AMLの正しいモーメント表示ができなくなり、AMLの自動停止機能が働くことがあります。下限まで下げたときはブームを少し上げてください。

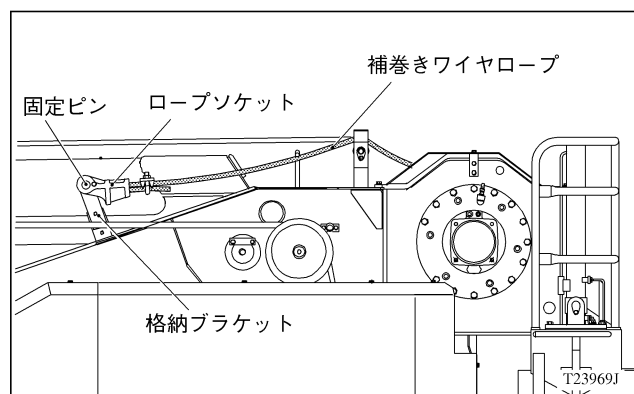
3. 格納ピンと連結ピンを抜いてシングルトップ本体を前方に回転させ、連結ピンを差し込んで固定してください。格納ピンは元の位置に入れておいてください。

⚠ 注意

⚠ シングルトップ本体の自重で急に回転することがあります。シングルトップ回転方向には立たないでください。



4. 固定ピンを抜き、補巻きワイヤロープのロープソケットを格納位置から外してください。



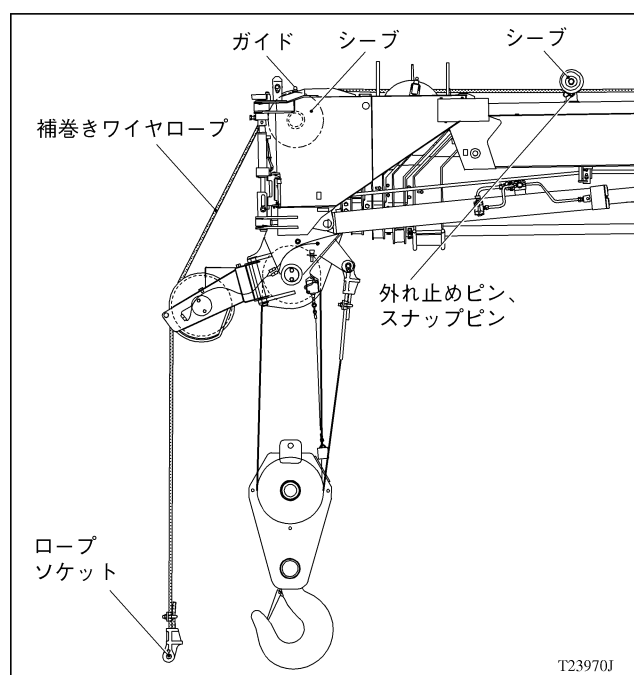
5. 補巻きウインチ巻下げ操作を行い、補巻きワイヤロープをシングルトップ先端付近まで引き出してください。

⚠ 注意

⚠ 事故防止のため、ブーム上面での作業となる場合は慎重に行ってください。

◆ワイヤロープの乱巻き防止のため、ワイヤロープを手で引っ張って張力を与えながら巻下げ操作をしてください。

6. ベースブーム上面、トップブームおよびシングルトップのシーブに補巻きワイヤロープを通してください。ワイヤロープを通した後、シーブのガイド、外れ止めピン、スナップピンを元通りにセットしてください。



ジブチルト操作

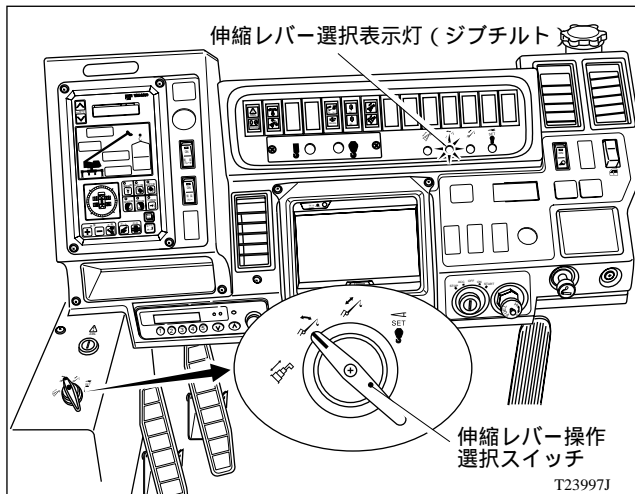
【留意事項】

◆ジブ作動は、ブーム作動と比べて若干応答性が遅い傾向にあります。特に、荷物をつり上げた状態でのジブチルト操作は、安全性を考慮して微動操作で行ってください。

◆ジブチルト角度が使用角度範囲（ $5^{\circ} \sim 60^{\circ}$ ）を超えると、自動停止します。同時にブザーが連続音（ヴーヴー）で鳴って警告します。すみやかに使用角度範囲に戻してください。

ジブチルト操作時は、使用角度範囲を超えないように注意してください。

1. 伸縮レバー操作選択スイッチを（ジブチルト）位置にしてください。

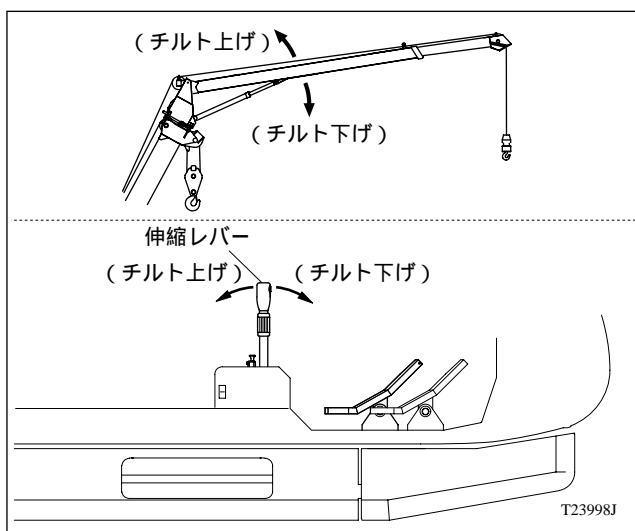


2. 伸縮レバーをゆっくりと操作して、ジブをチルトさせてください。

チルト上げ：伸縮レバーを手前に引く

チルト下げ：伸縮レバーを前方に押す

停止：伸縮レバーを中立位置に戻す



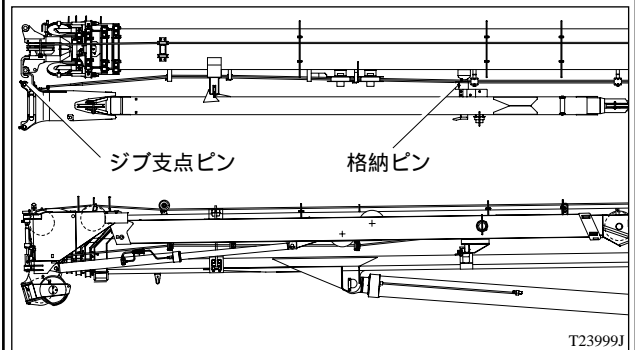
ジブの装着

警告

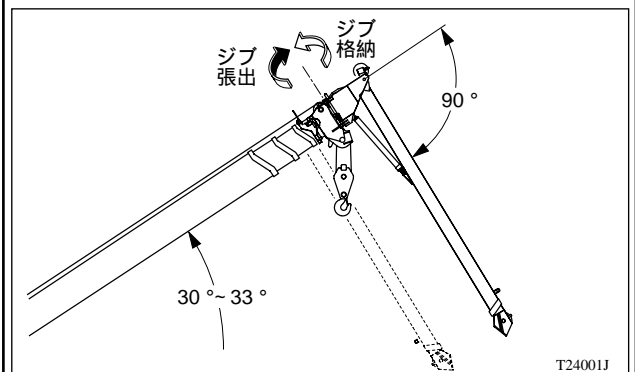
▲ 作業前にAMLにジブセット状態を登録してください。なお、ジブセット状態を登録しているときは、AMLの制御機能および自動停止機能は解除されています。慎重に作業してください。

▲ ジブ落下防止のため、ブーム角度は 0° 以下に下げないでください。

▲ 格納ピンとジブ支点ピンを抜いた状態でクレーン操作を行うと、ジブが落下します。格納ピンまたはジブ支点ピンが入っていることを確認してから操作してください。



▲ ジブをチルトさせずにジブの張出・格納操作を行うと危険です。ジブの張出・格納時は、ブーム角度を $30^{\circ} \sim 33^{\circ}$ にして、ジブを 90° チルトさせた状態にしてから行ってください。

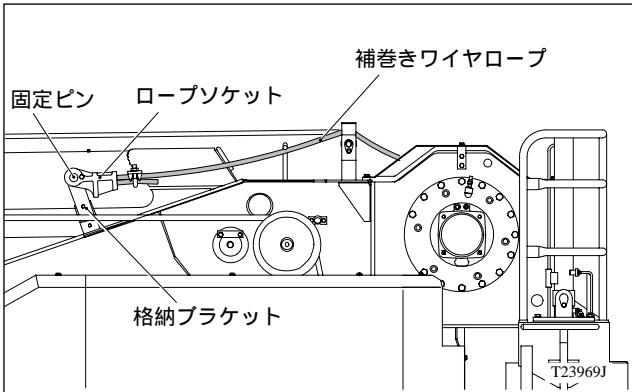


▲ ジブが移動する範囲に人が立ち入ると、けがをする恐れがあります。ジブの下方や移動範囲内には立ち入らない措置をしてください。また、周囲にジブ移動の障害となるような構造物等がないことを確認してください。

▲ ジブ支点ピンおよびジブ連結ピン操作後は、ストッパでロックしてください。また、格納ピンはスナップピンを入れてロックしてください。

▲ 高所で作業を行うときは、転落防止のため作業台を使用して安全に作業を行ってください。

- (3) ロープソケットを図のようにガイドに通してから格納ブラケット取り付けてください。

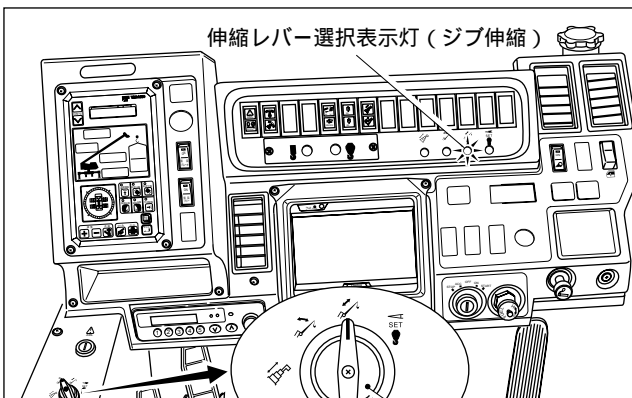


- (4) 少し緩んだ状態になるまで、補巻きワイヤロープを巻き込んでください。

【留意事項】

- ◆巻き込み過ぎると、ブラケットが切断されます。巻上げ操作は慎重に行ってください。

- 13.** AMLにブーム作業状態を登録してください。



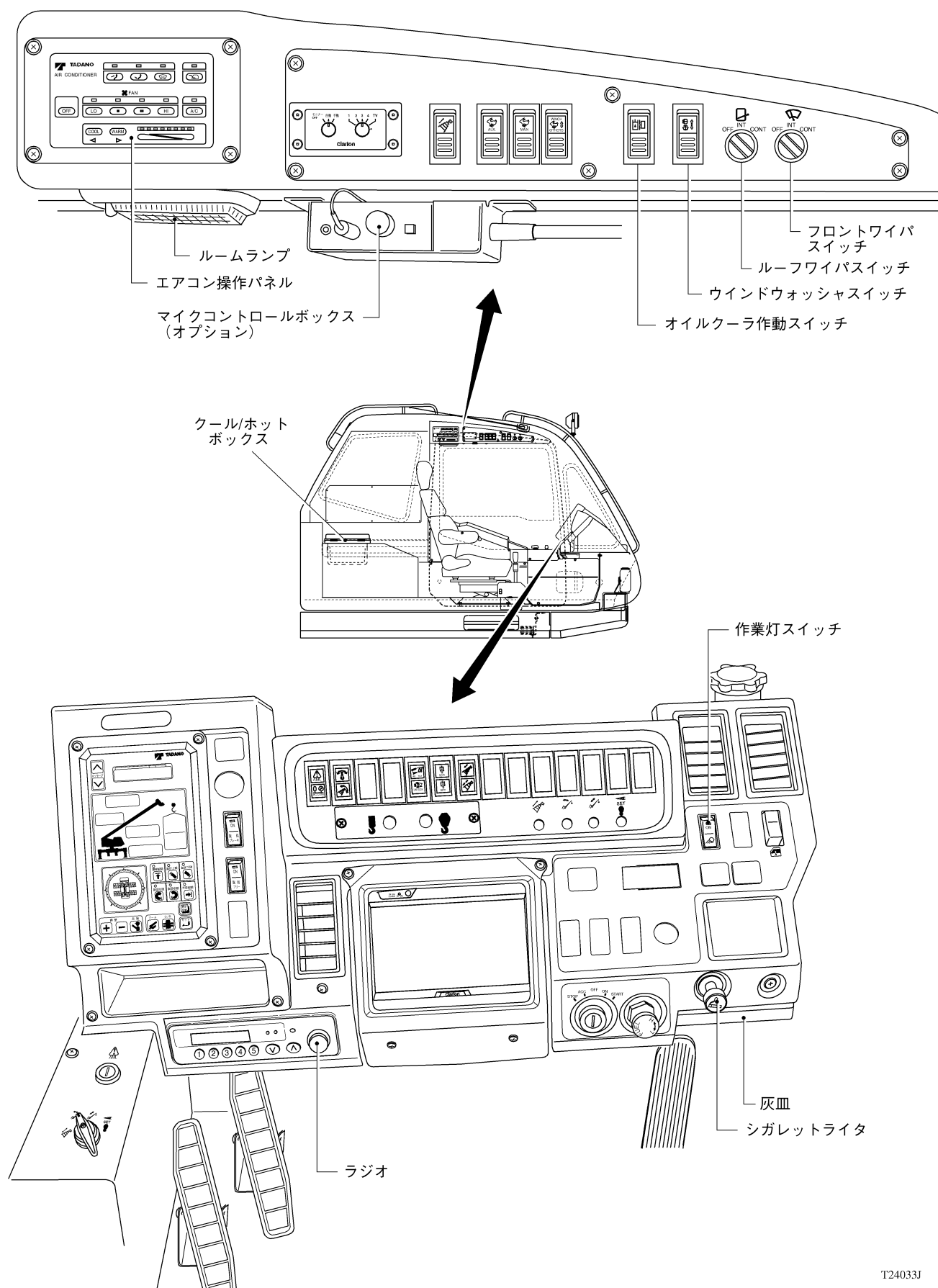
- 14.** 巻過防止装置が正常に働くことを確認してください。

- 15.** 補巻きフックを格納してください。

以上でジブの格納が完了しました。

運転室内装備の使い方

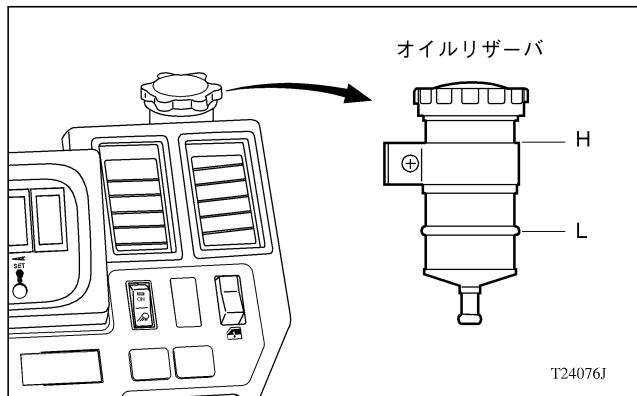
操作装置



油量点検 (オイルリザーバ) …「毎日」
オイル交換 (オイルリザーバ)
 ……………「2000時間または2年毎」

油量点検

オイルリザーバ内の油量が適量であるか点検してください。HレベルとLレベルの間に油面があれば適量です。不足していれば、オイルリザーバのキャップを取り外して補充してください。

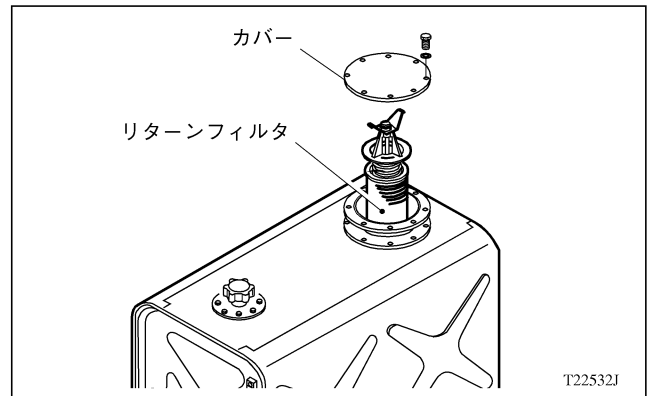


オイル交換

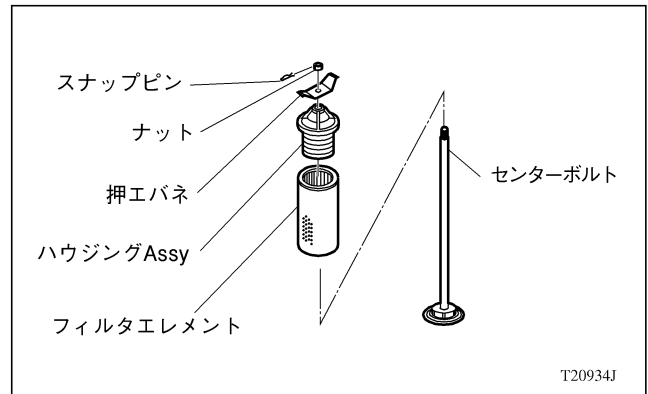
◆オイル交換は、最寄りの当社指定サービス工場で行ってください。

リターンフィルタの交換 (作動油タンク) ……………「500時間または6カ月毎」

1. 作動油タンク上面のカバーを取り外して、リターンフィルタを取り出してください。
 ◆フィルタエレメントから完全に作動油を落としてからタンクから抜き取ってください。



2. リターンフィルタのスナップピンを抜き、ナットを取り外してください。



3. フィルタエレメントを新しいものに交換して、リターンフィルタを組み立ててください。
4. リターンフィルタをタンクに組み込み、カバーを取り付けてください。

ワイヤロープのねじれ修正

【留意事項】

◆ワイヤロープは使用しているうちに構造上の伸びが除去されたり、よりが戻されたりします。そのまま使用していると、ロープ末端にねじれが集中してロープ損傷の原因になります。

ロープのよりが安定した状態に落ち着くように、定期的にワイヤロープの掛け換えを行ってロープ末端のねじれを取り除いてください。特にワイヤロープを交換した後は、重要です。

ワイヤロープの交換

ワイヤロープの交換基準

警告

▲ 作業中にワイヤロープが切断すると、重大な事故を招きます。ワイヤロープは定期的に点検し、交換基準に達している場合は直ちに交換してください。

【留意事項】

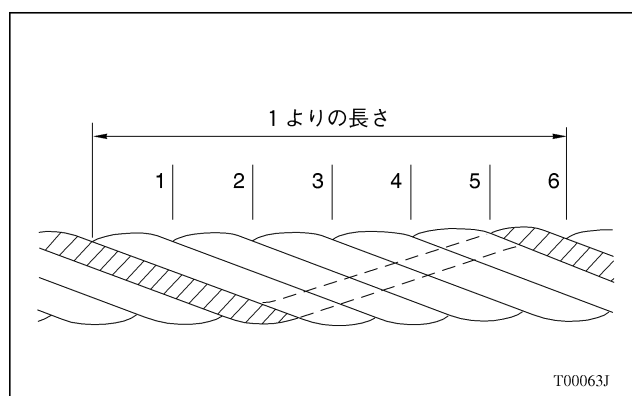
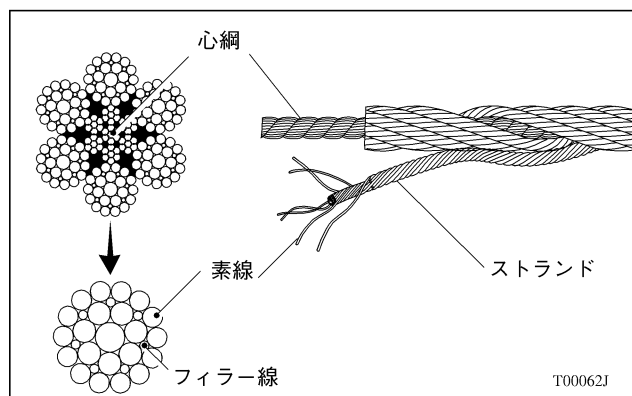
◆工場出荷時の仕様と異なるワイヤロープを使用する場合は変更届けが必要です。

ワイヤロープの購入は最寄りの当社指定サービス工場へご用命ください。

ワイヤロープは日常点検、定期(月例)点検を行い、断線・摩耗・腐食・型崩れ・電弧または熱影響・塗油状態・端末状態を確認してください。点検の結果、下記の(1)～(5)に該当するものは交換してください。

◆端末部に異常が認められた場合は、補修または切り詰めを行ってください。

- (1) ワイヤロープ1よりの間において、素線（フィラー線を除く）数の10%以上の素線が切断しているもの
◆図は標準的な6ストランドのワイヤロープで説明しています。



第71条（運転の合図）

- 1.事業者は、移動式クレーンを用いて作業を行うときは、移動式クレーンの運転について一定の合図を定め、合図を行う者を指名して、その者に合図を行わせなければなりません。ただし、移動式クレーンの運転者に単独で作業を行わせるときは、この限りではありません。
- 2.前項の指名を受けた者は、同項の作業に従事するときは、同項の合図を行わなければなりません。
- 3.第1項の作業に従事する労働者は、同項の合図に従わなければなりません。

第72条（搭乗の制限）

事業者は、移動式クレーンにより、労働者を運搬し、または労働者をつり上げて作業させてはなりません。

第73条

- 1.事業者は、第72条の規定にかかわらず、作業の性質上やむを得ない場合、または安全な作業の遂行上必要な場合は、移動式クレーンのつり具に専用のとう乗設備を設けて、そのとう乗設備に労働者を乗せることができます。
- 2.事業者は、前項のとう乗設備については、墜落による労働者の危険を防止するため、次の事項を行わなければなりません。
 - (1) とう乗設備の転位および脱落を防止する措置を講ずること。
 - (2) 労働者に安全带等を使用させること。
 - (3) とう乗設備と、とう乗者との総重量の1.3倍に相当する重量に500kgを加えた値が、その移動式クレーンの定格荷重をこえないこと。
 - (4) とう乗設備を下降させるときは、動力下降の方法によること。
- 3.労働者は前項の場合において安全带等の使用を命じられたときは、これを使用しなければなりません。

第74条（立入り禁止）

事業者は、移動式クレーンに係る作業を行うときは、その移動式クレーンの上部旋回体と接触することにより、労働者に危険が生ずる恐れのある箇所に労働者を立ち入らせてはなりません。

第74条の2

事業者は、移動式クレーンに係る作業を行う場合であって、次の各号のいずれかに該当するときは、つり上げられている荷（第6号の場合にあってはつり具を含む）の下に労働者を立ち入らせてはなりません。

- (1) ハッカーを用いて玉掛けをした荷がつり上げられているとき。
- (2) つりクランプ1個を用いて玉掛けをした荷がつり上げられているとき。
- (3) ワイヤロープ等を用いて1箇所に玉掛けをした荷がつり上げられているとき。（その荷に設けられた穴またはアイボルトにワイヤロープ等を通して玉掛けをしている場合を除く）
- (4) 複数の荷が一度につり上げられている場合であって、その複数の荷が結束され、箱に入れられる等により固定されていないとき。
- (5) 磁力または陰圧により吸着されるつり具または玉掛け用具を用いて玉掛けをした荷がつり上げられているとき。
- (6) 動力下降以外の方法により、荷またはつり具を下降させるとき。

第74条の3（強風時の作業中止）

事業者は、強風のため移動式クレーンに係る作業の実施について危険が予想されるときは、その作業を中止しなければなりません。

第74条の4（強風時における転倒の防止）

事業者は、前条の規定により作業を中止した場合であって移動式クレーンが転倒する恐れのあるときは、その移動式クレーンのジブの位置を固定させる等により、移動式クレーンの転倒による労働者の危険を防止するための措置を講じなければなりません。

第75条（運転位置からの離脱の禁止）

- 1.事業者は、移動式クレーンの運転者を荷をつつたままで、運転位置から離れさせてはなりません。
- 2.前項の運転者は荷をつつたままで、運転位置から離れてはなりません。

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL